

2016 年度 在学生アンケート 結果報告【大学】

目次

1. 調査の概要	1
2. 本学に入学してよかったか	2
3. 導入教育科目「言語と平和」で建学の精神が理解できたか	2
4. 大学生活についての満足度	2
5. 留学について	5
6. 外国語自律学習支援室「NINJA」の利用	7
7. 学修状況	8
8. 進路・就職	8
9. 大学に対する意見	9
10. まとめ	9

1. 調査の概要

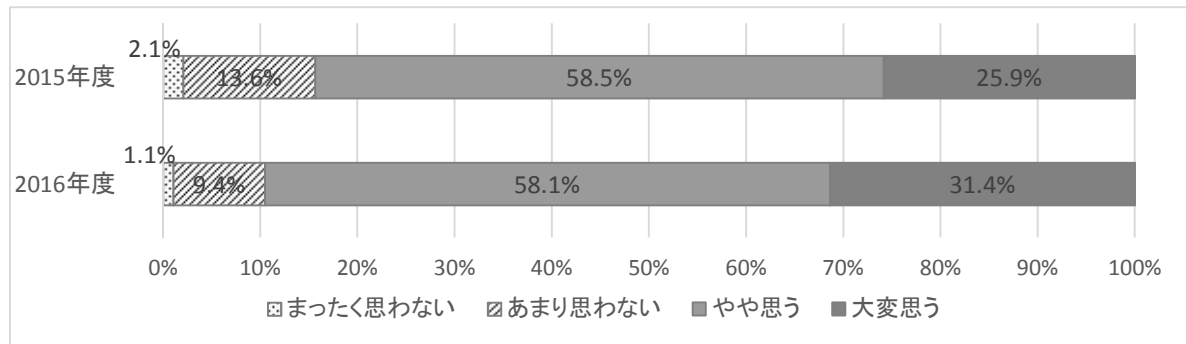
本報告は、京都外国語大学における 2016 年度の在学生を対象に、2016 年 3 月 30 日、31 日に行われた授業科目オリエンテーションで実施したアンケートの結果を集計したものである。調査の回収状況は下表のとおりである。

[表 1] 調査の回収状況

	男子	女子	合計
英米語学科	152(27.8%)	378(41.1%)	530(36.2%)
スペイン語学科	46(50.0%)	89(68.5%)	135(60.8%)
フランス語学科	24(41.4%)	108(72.5%)	132(63.8%)
ドイツ語学科	33(39.8%)	82(65.1%)	115(55.0%)
ブラジルポルトガル学科	53(46.9%)	45(53.6%)	98(49.7%)
中国語学科	35(40.7%)	88(64.2%)	123(55.2%)
日本語学科	48(56.5%)	74(57.8%)	122(57.3%)
イタリア語学科	38(49.4%)	94(67.1%)	132(60.8%)
国際教養学科	31(50.0%)	91(54.5%)	122(53.3%)
不明			24
合計	498(38.3%)	1109(53.0%)	1607(48.2%)

2. 本学に入学してよかったか

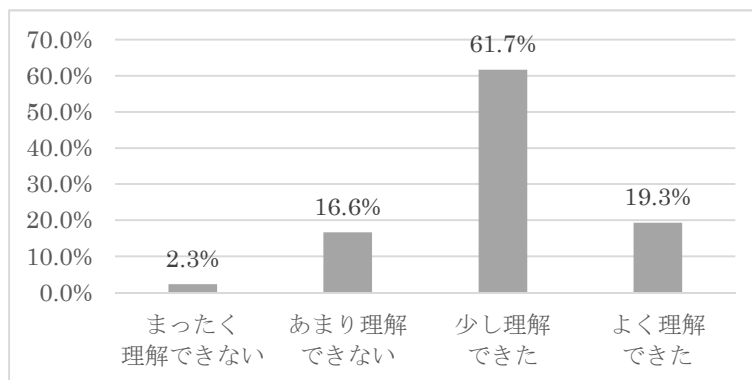
本学に入学してよかったと思うかを、「大変思う」「やや思う」「あまり思わない」「まったく思わない」から選んでもらった。「大変思う」「やや思う」と回答した学生を合わせると約9割となり、在学生の多くが入学してよかったと思っているようである。ただし、調査の回収率は半数程度であるため、全体の状況とは異なる可能性がある点には注意が必要である。この質問は、2015年度に実施した同様の在学生アンケートにも含まれているため、今年度との差を検討したところ、統計的に有意な差がみられた。昨年度と比較すると、入学してよかったと思う学生の割合は、若干増加しているようである。



[図1] 入学してよかったか

3. 導入教育科目「言語と平和」で建学の精神が理解できたか

本学では、新入生に建学の精神を理解させるために、導入教育科目として「言語と平和」という科目を設けている。この科目を通して、建学の精神である「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」のコンセプトや理念が理解できたかどうかをたずねた。8割程度の学生は「理解できた」と回答しており、「言語と平和」の授業を通して建学の精神が学生に理解されていることがうかがえる。



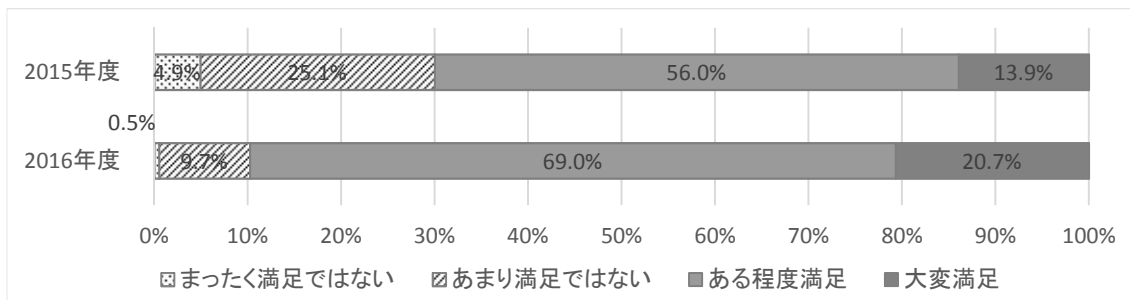
[図2] 導入教育科目で建学の精神が理解できたか

4. 大学生活についての満足度

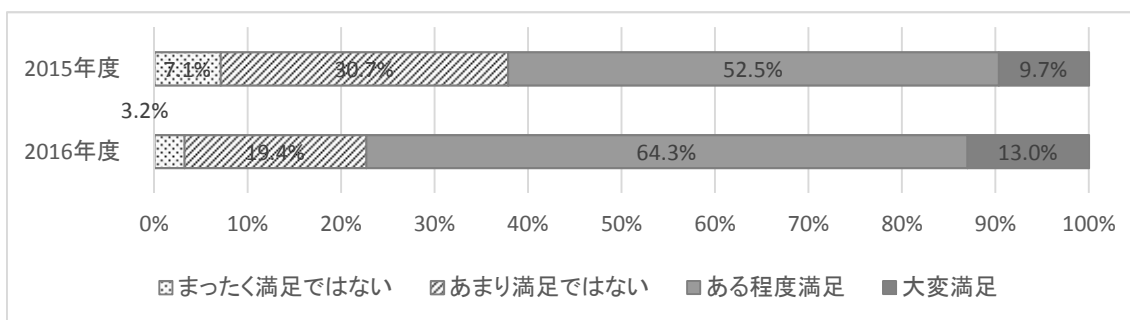
大学生活について13の項目を挙げ、それぞれについて「大変満足」「ある程度満足」「あまり満足ではない」「まったく満足ではない」で評定してもらった。全体としてみれば、いずれの項目においても「満足」であるとの回答が多く、在学生の多くが大学生活に概ね満足していることがうかがえる。その中で「外国人留学生との交流」は、他の項目と比べて満足度がやや低

い。大学生活の中で留学生を目にする機会が比較的多いのに対して、彼らとの「交流」が少ないことが不満につながっているのかもしれない。

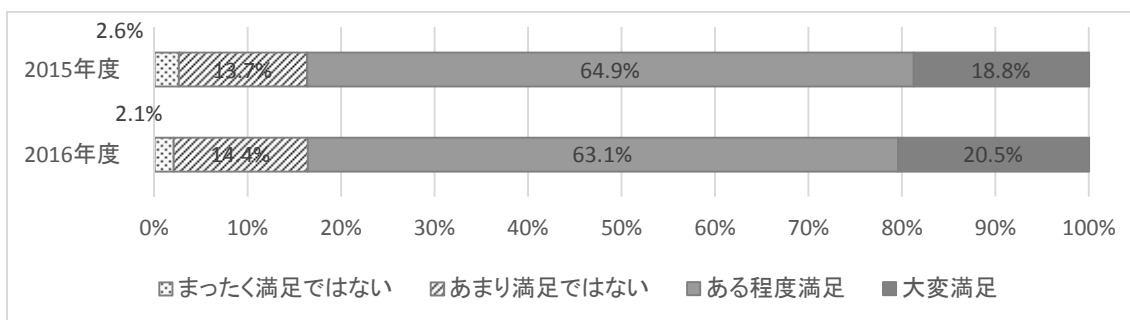
大学生活への満足度は、2015年度に実施した在学生アンケートでも同様にたずねている。それぞれの対応する項目を昨年度と比較すると、「クラス担任制」「弁論大会、ナショナルウィーク等の学科行事」「大学祭・体育祭等の全学イベント」以外の項目で、年度間に統計的に有意な差がみられた。これらの項目における年度間の割合を比較すると、いずれの項目でも2016年度の回答の方が、満足度が高い傾向にある。昨年度と比較して、学生の大学生活における満足度は全般的に向上しているようである。



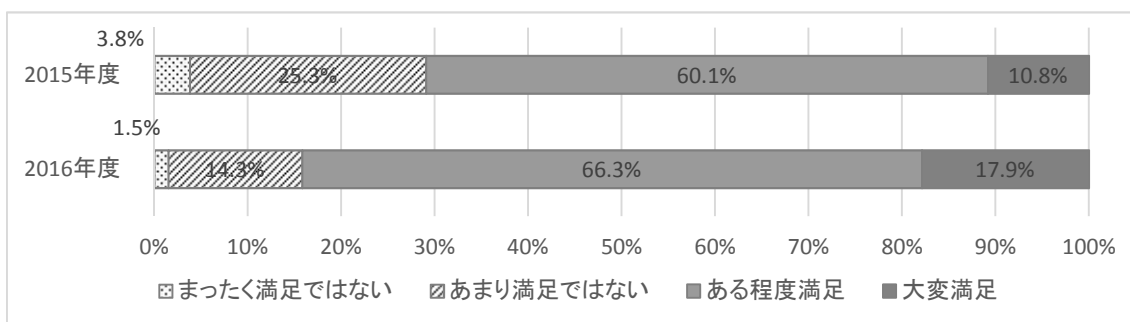
[図 3] 教員とのかかわり



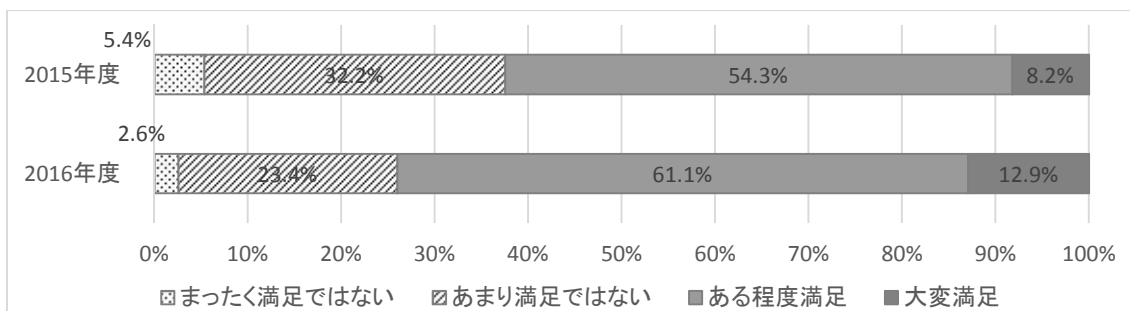
[図 4] 職員とのかかわり



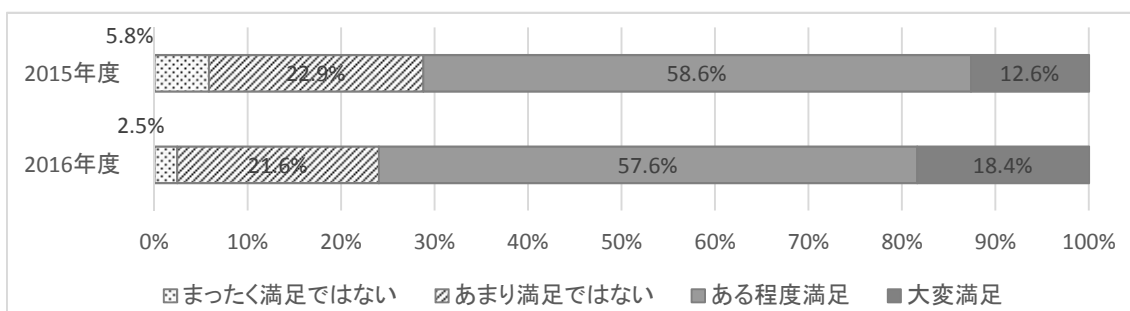
[図 5] クラス担任制(アカデミックアドバイザー制度)



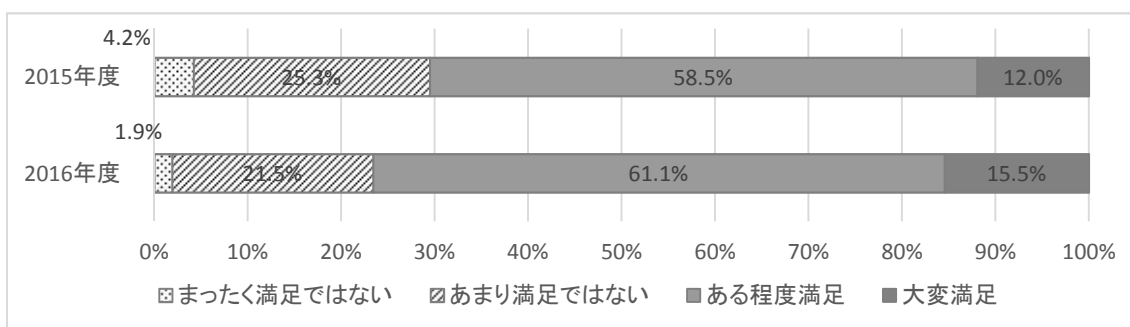
[図 6] 学業面への支援・アドバイス



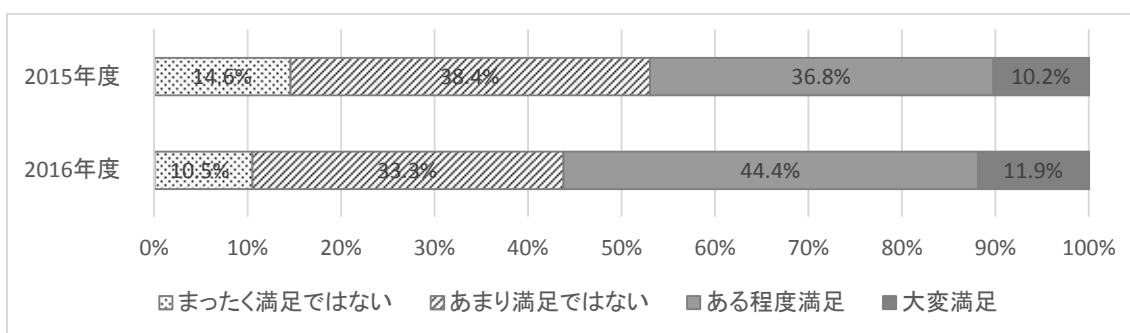
[図 7] 生活面への支援・アドバイス



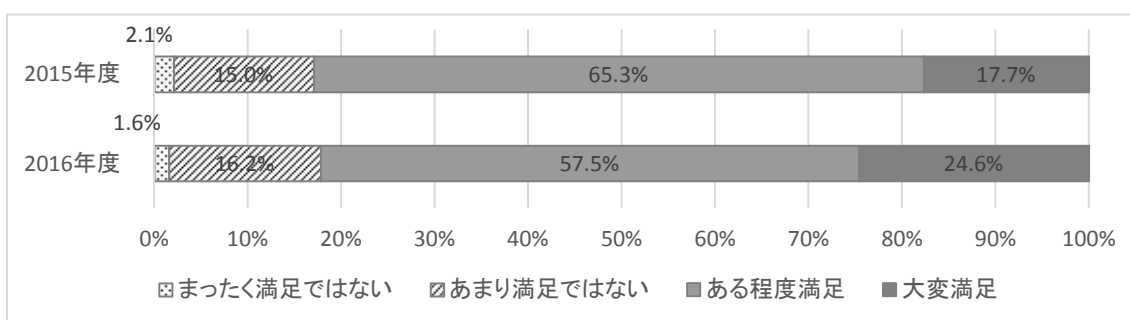
[図 8] 留学への支援・アドバイス



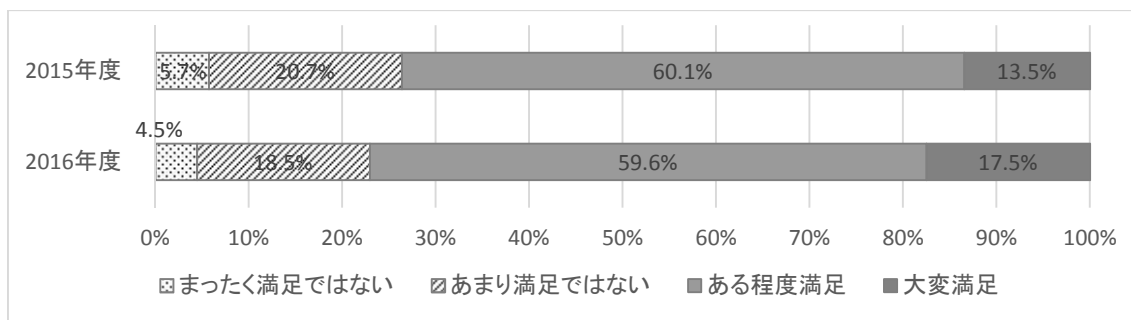
[図 9] 就職への支援・アドバイス



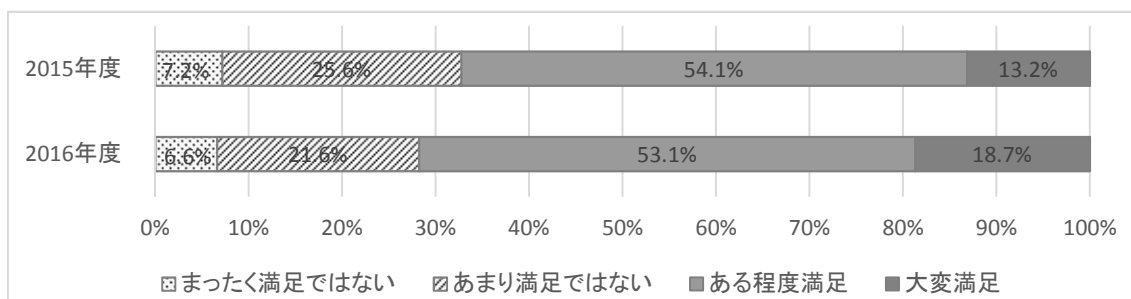
[図 10] 外国人留学生との交流



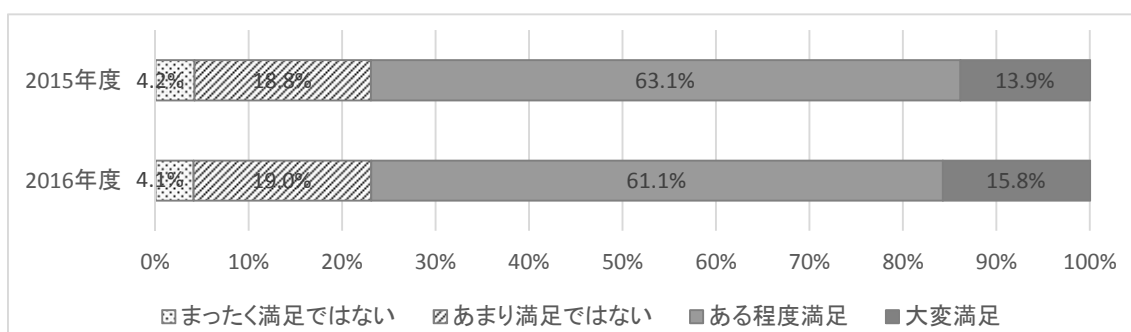
[図 11] 資格検定試験への支援



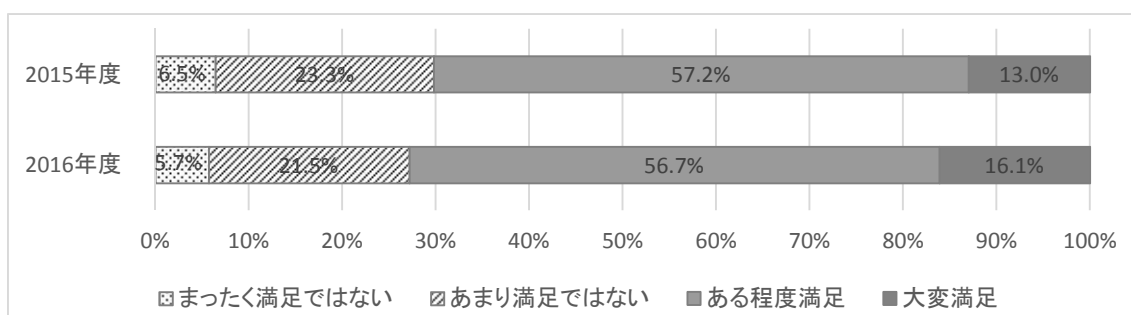
[図 12] 奨学金制度



[図 13] クラブ・サークル等の課外活動への支援



[図 14] 弁論大会、ナショナルウィーク等の学科行事



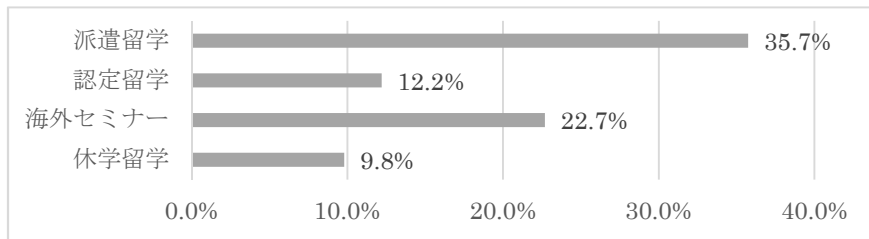
[図 15] 大学祭・体育祭等の全学イベント

5. 留学について

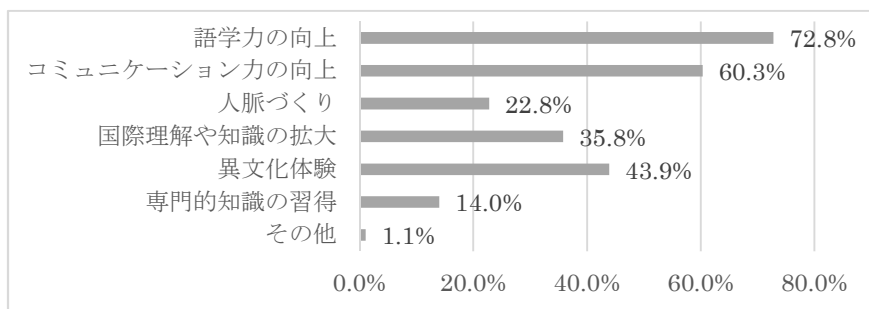
留学について、今後の留学希望の有無や留学を希望する期間、目的、留学を妨げる要因やそれに対する対応についてたずねた。ほとんどの学生が何らかの形で留学を希望しているが、希望が多いのは本学がプログラムとして提供している派遣留学や海外セミナーであることがわかる。留学の目的は、やはり「語学力の向上」や「コミュニケーション力の向上」が多い。

留学を阻害する要因としては「渡航費や滞在費の不足」が最も多く、経済的な理由が留学を阻害する大きな要因となっているようである。次いで言及が多いのが「語学力の不安」や「就職活動への影響」などである。これらは、留学を阻害する大きな不安要素であるが、大学とし

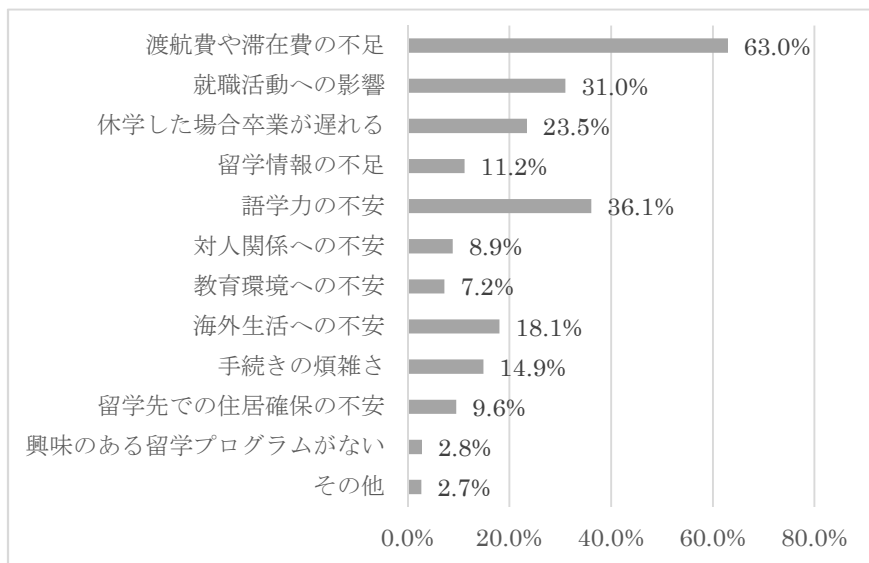
て制度的に対応できる部分も大きく、今後の改善が期待される。他方で、留学を阻害する要因に直面した場合の対応として、教職員への相談など大学の資源はあまり利用されず、自分自身で留学情報を調べることや友人への相談などが中心になっている。ここから、留学希望があるにも関わらず、何らかの障害を抱える学生に対して、適切に大学の支援が行き届いていない可能性がみえてくる。留学制度の整備と併せて、支援方法についても検討が必要だろう。



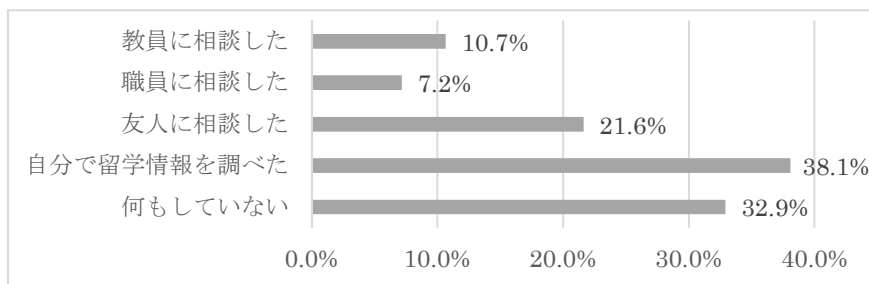
【図 16】 留学希望



【図 17】 留学の目的



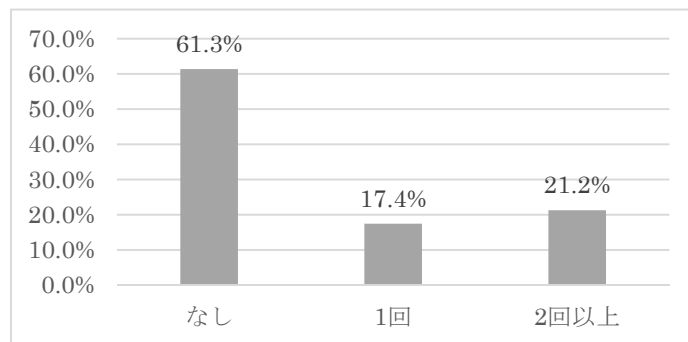
【図 18】 留学を阻害する要因



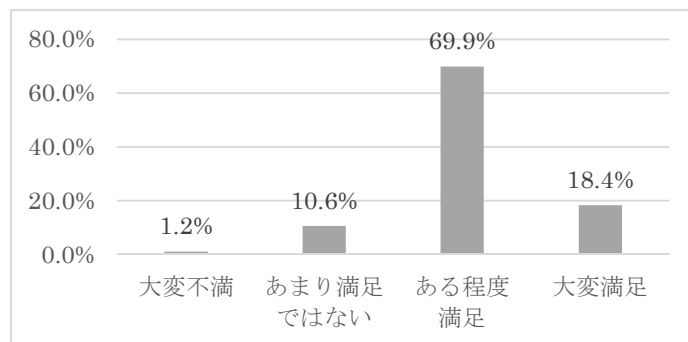
【図 19】 留学阻害要因を取り除くためにした行動

6. 外国語自律学習支援室「NINJA」の利用

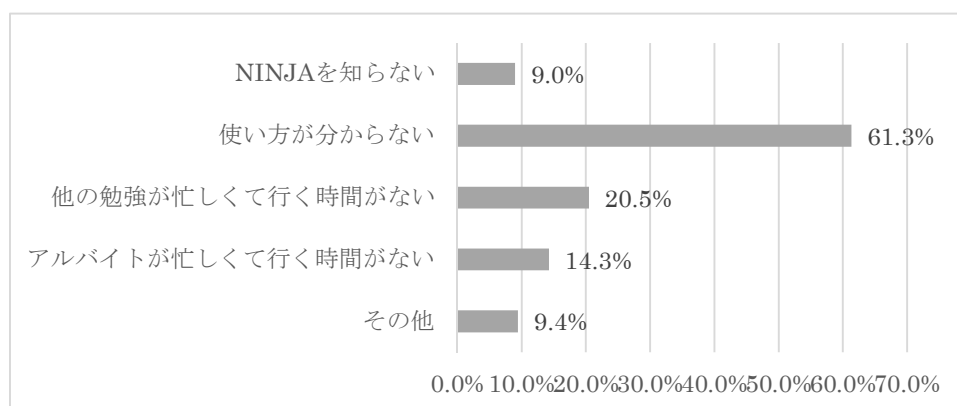
本学では、外国語自律学習支援室「NINJA」とよばれる、外国語によるコミュニケーション能力を身につける方法や技術、楽しさを学び、自律学習者を育成する施設を用意しており、様々なプログラムを利用することができる。NINJAの利用状況をたずねると、半数以上の学生が利用したことがないと回答していることから、利用者が一部にとどまっていることがうかがえる。NINJAを利用しない理由としては、「使い方が分からない」ことが最も大きな理由となっている。利用方法は来室した学生に丁寧に説明されているが、来室する前の学生にもさらなる使い方の周知が必要かもしれない。利用者の満足度についてみると、「ある程度満足」との回答が最も多く一定の満足は得られているようであるが、「大変満足」している学生は一部にとどまっている。利用者数の拡大や、利用者の満足度の向上などが今後の課題となるだろう。



【図 20】 NINJA の利用経験



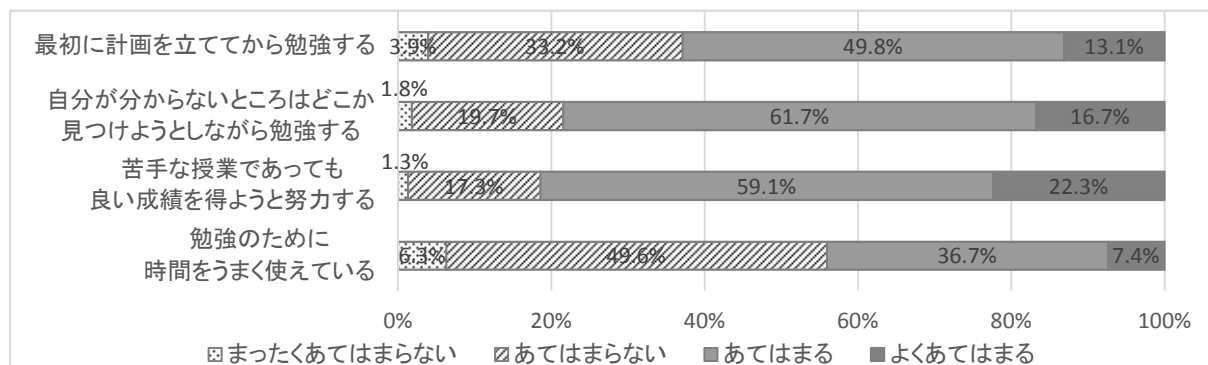
【図 21】 NINJA の利用満足度



【図 22】 NINJA を利用しない理由

7. 学修状況

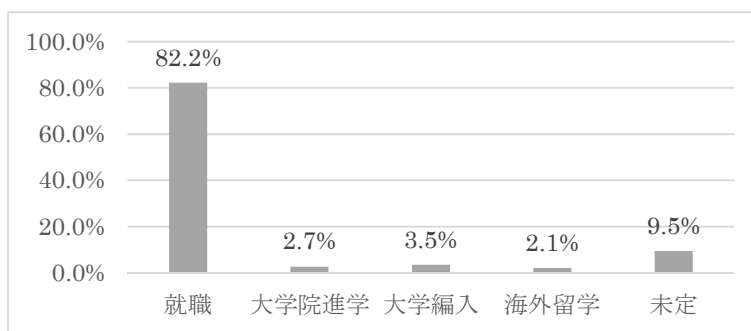
大学での学修状況について4つの項目を挙げ、それぞれどの程度当てはまるのか評定してもらった。回答の分布として「あてはまる」「よくあてはまる」への言及が相対的に多いのは、「2. 自分がわからないところはどこか見つけようとしながら勉強した」「3. 苦手な授業であっても良い成績を得ようと努力した」である。他方で、「1. 最初に計画を立ててから勉強した」「4. 勉強のために時間をうまく使っていた」については、「あてはまる」「よくあてはまる」への言及が少ない。学修の方法については比較的好ましい傾向がみられるようであるが、学修計画や学修時間の使い方など計画的な学修については、改善が必要かもしれない。



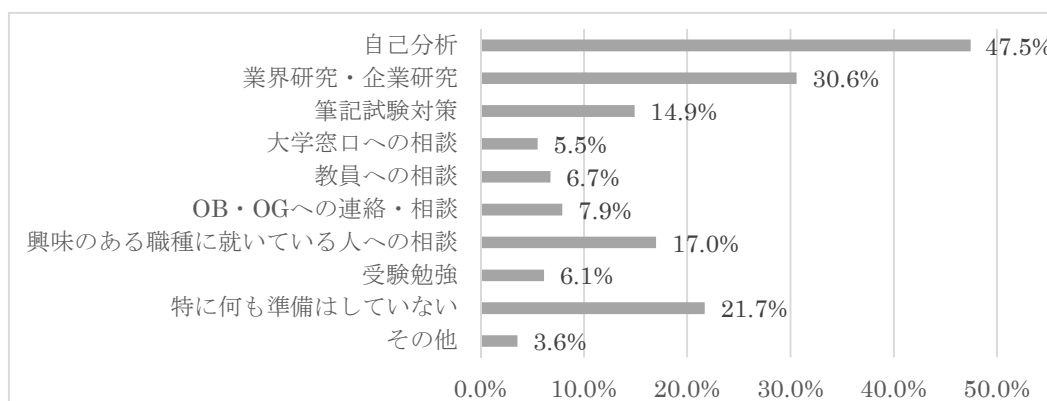
[図 23] 学修状況

8. 進路・就職

進路は、8割以上の学生が就職を希望している。進路に対して取り組んでいることとしては、「自己分析」や「業界研究・企業研究」への言及が多い。「大学の窓口への相談」や「教員への相談」への言及は少なく、大学としての進路支援のあり方に課題があるかもしれない。



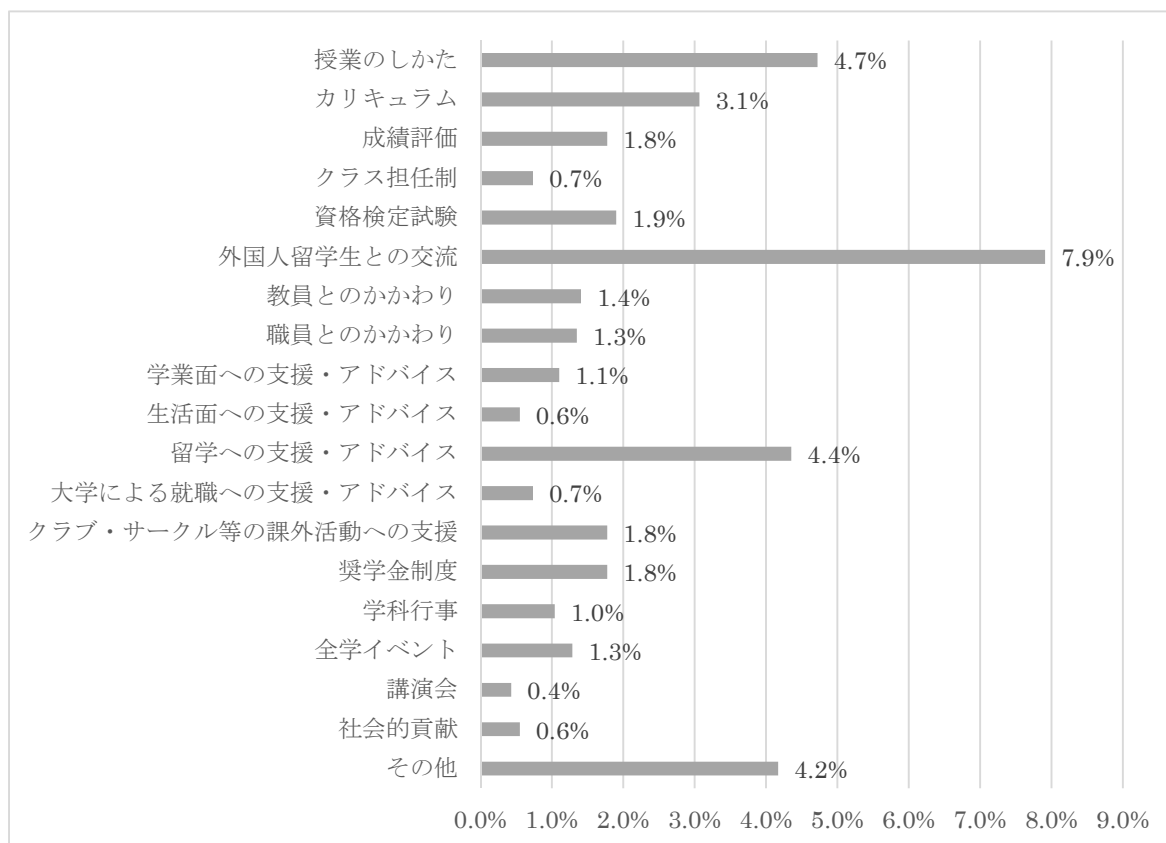
[図 24] 希望する進路



[図 25] 進路のための準備

9. 大学に対する意見

大学に対して意見がある項目を選択してもらい、選択したものについて自由に意見を記述してもらった。選択された項目にはそれぞれ意見が述べられているが、ここでは意見の数を集計する。全体的に見れば意見の数は少ないが、中でも相対的に言及される数が多いのは、「外国人留学生との交流」である。この点は、満足度においても他の項目より低いことから、日本人学生と留学生との交流について、学生が何を期待しているのかを踏み込んで調査したうえで、対応を検討する必要があるだろう。



[図 26] 大学に対する意見の数

10. まとめ

本報告書では、在学生に対するアンケートの結果を集計し、彼らの大学生活における満足度や留学、学修状況、進路などについて分析を行った。総じてみれば、在学生の大学生活に対する満足度は高く、昨年度よりもやや向上していることが明らかになった。他方で、いくつかの点で課題も浮かび上がってきた。それぞれの課題については、別途詳細な調査を行い対応していく必要があるだろう。

本調査は、学生の大学生活全般について包括的に把握することを目的としているが、調査内容には不十分な点も多く今後も改善が必要である。また、回収率が半数程度と低く、偏りも大きい懸念がある。授業科目オリエンテーションに出席し、調査に協力してくれる学生に対して、この調査では把握できていない学生の状況は、ここでの集計で明らかになった傾向とは大きく異なっている可能性もある。より正確に学生の状況を把握するためには、調査の実施方法についても改善が必要だろう。